

科目区分	副専攻科目						
科目名	オルガン学Iー構造						
担当教員	山野 政登司						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	オルガンの基礎知識						
授業の概要	楽器の演奏や音楽史を学ぶ機会はあるが、楽器その物、構造やその歴史について学ぶ講座は少ない。オルガンの構造、音響、音律、楽器の歴史を主に講義する。また、オルガンの使用や保守管理、必要な情報収集の手助けをする。						
到達目標	オルガンに関わる必要な基礎知識を把握する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットを利用する、オルガン関係情報収集方法、ネット利用の注意点。 2. 調律や音程、音律論を詳細解説。 3. プロジェクターを利用し、主要オルガン画像、その音色を視聴。 4. 資料プリントを参照し、オルガンの種類、歴史、構造を学習。 5. オルガンの使用、オルガン保守管理の注意事項。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	情報収集や学習に必要な、ネット検索やパソコン操作能力を高める。国内外、各地にあるオルガンを訪ね、種々のオルガンを演奏し、その特徴を学ぶ。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 90% 質疑応答 10%						
教科書	講師作成プリントを配布します。						
参考書	下記サイトの、オルガン関係文献を参照。 http://www.yamanorg.com/bibliog.htm						

科目区分	副専攻科目						
科目名	オルガン学II－歴史						
担当教員	長谷川 美保						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	オルガンの歴史と、各時代のオルガン音楽の変遷						
授業の概要	本授業は、「音楽実技」を履修する学生が、オルガンの成り立ちと発展を知り、より良くオルガンの演奏法を理解し体得するための重要なプロセスとなります。また「音楽実技」を履修していない者でも、オルガンが生まれた背景や社会情勢、各時代の文化をつぶさに知ることで、ヨーロッパ全体の社会史およびヨーロッパ人の表現方法の源泉に触れ、より広い世界を理解することにつながります。						
到達目標	オルガンが遂げてきた、時代ごとや国ごとの発展・変遷を知り、オルガン音楽全体をよく理解できるようになります。同時に、時代によって音楽というものの価値観が異なることを学び、最終的には、一市民として将来文化芸術にどのような関わり方をすべきか、自分の考えを持てるようにします。						
授業計画	<p>第1日： 教室にてオルガン製作の過程をまとめたDVDを鑑賞。ヨーロッパ各地に現存する歴史的オルガンの映像・写真等を見ながらオルガン建造の歴史を学びます。各国のオルガンの違いについても講義します。初日はバロック時代（バツハ）までを学びます。</p> <p>第2日： ロマン派時代以降のオルガンの変遷と音楽の歴史を学びます。20世紀に日本に導入されたオルガンとオルガン音楽の、ヨーロッパとの違いを理解し、現在の日本で起きているオルガンをめぐる様々な課題を考えます。第2日後半はチャペルに移動し、実際にオルガン内部を見学しながら、これまで学んだオルガンの構造と歴史を確認します。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	集中講義までに、生のオルガン演奏（音楽実技やアンサービスではなくコンサート）を1回以上聞いておくこと（松蔭のチャペルまたは学外でのコンサートなど、内容は問わない）。						
授業方法	主に講義						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	プリントを渡します。						
参考書	ニューグローヴ音楽事典「オルガン」の項（宗教センター内にあり。閲覧可能）						

科目区分	副専攻科目						
科目名	音楽実技III						
担当教員	伊藤 純子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガン演奏の研究						
授業の概要	音楽実技Ⅰ、Ⅱで培った基礎の上に、さらに高度な演奏技術と表現を習得するために、多角的なアプローチにより、演奏技術の向上を図ります。具体的には、履修者各自との話し合いにより決定される課題曲の演奏を通して、より深い研究を促します。楽器とのコミュニケーションの取り方、楽曲への取り組み方、表現の仕方、演奏者と聴衆とではどのように聴こえ方が異なってくるか、などについて、課題曲の演奏を用いて、随時ひとつずつ取り上げ、整理していきます。						
到達目標	オルガンという楽器は、慣れれば慣れるほど奥深い発見があり、一方で、慣れによって知らないうちに付いてしまった癖は、思うような演奏が出来なくさせてしまいます。楽器との付き合い方や、楽曲への向き合い方の点で、独学では気付けない面を、グループレッスンで分かち合うことにより、新しい発見と学びを導き出します。修了後に独学でオルガンを学び続ける上での、ヒントを修得します。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・わかちあい 2. グループレッスン 3. グループレッスン 4. グループレッスン 5. グループレッスン 6. グループレッスン 7. グループレッスン 8. グループレッスン 9. グループレッスン 10. 公開発表会準備 11. 公開発表会準備 12. 公開発表会準備 13. 公開発表会準備 14. 公開発表会準備 15. 公開発表会・講評・わかちあい 16. 後期の方針について・わかちあい 17. グループレッスン 18. グループレッスン 19. グループレッスン 20. グループレッスン 21. グループレッスン 22. グループレッスン 23. グループレッスン 24. 公開発表会準備 25. 公開発表会準備 26. 公開発表会準備 27. 公開発表会準備 28. 公開発表会準備 29. 公開発表会準備 30. 公開発表会（試験を兼ねる）・講評・わかちあい 						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自が学内外の楽器で練習、準備をする						
授業方法	実技指導平常点60%、試験40%						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修の対象者 音楽実技Ⅰ、Ⅱを受講している者、もしくはそれ相応の演奏技術を有する者。 2. 履修者の人数によっては、隔週でのレッスンになりますが、毎週出席すること。 3. 授業時間内は静粛に演奏に耳を傾け、積極的に意見を発信すること。 4. 3分の2以上の出席が出来ない場合は、受講資格を失います。 5. 自分ではこれ以上発見がないというところまで練習した上で、臨むこと 						
教科書	とくになし						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習II						
担当教員	奥村 正子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の画曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>前期 第1回 ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方①</p> <p>第2回 ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方②</p> <p>第3回 ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸①</p> <p>第4回 ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸②</p> <p>第5回 ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③</p> <p>第6回 ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心①</p> <p>第7回 ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心②</p> <p>第8回 ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋①</p> <p>第9回 ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋②</p> <p>第10回 ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③</p> <p>第11回 ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</p>						

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発声の基礎 背中面① <p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その2 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2 ・発声の基礎 背中面② <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その3 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3 ・発声の基礎 体を開く① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その4 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4 ・発声の基礎 体を開く② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その5 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5 ・発声の基礎 体を開く③ <p>後期</p> <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その1 ・ポリフォニーの合唱曲 その1 ・発声の発展 筋肉の連携① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その2 ・ポリフォニーの合唱曲 その2 ・発声の発展 筋肉の連携② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その3 ・ポリフォニーの合唱曲 その3 ・発声の発展 筋肉の連携③ <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その4 ・ポリフォニーの合唱曲 その4 ・発声の発展 横隔膜① <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その5 ・ポリフォニーの合唱曲 その5 ・発声の発展 横隔膜② <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その1 ・降臨節の合唱曲 その1 ・発声の発展 横隔膜③ <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その2 ・降臨節の合唱曲 その2 ・発声の発展 顔面の響き① <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その3 ・降臨節の合唱曲 その3 ・発声の発展 顔面の響き② <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その4 ・待降節の合唱曲 その4 ・発声の発展 顔面の響き③ <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その5 ・降臨節の合唱曲 その5 ・発声の発展 体を響かせる① <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その1 ・発声の発展 体を響かせる② <p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その2 ・発声の発展 体を響かせる③ <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
------	---

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の合唱曲 その3 ・発声の発展 声を離す① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その4 ・発声の発展 声を離す② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その5 ・発声の発展 声を離す③
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IIA						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸① <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸② <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③ <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心① <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心② <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋① <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋② <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③ <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3~4声） その1 ・発声の基礎 背中面① 						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その2 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2 ・発声の基礎 背中面② <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その3 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3 ・発声の基礎 体を開く① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その4 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4 ・発声の基礎 体を開く② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル(Allein Gott) その5 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5 ・発声の基礎 体を開く③
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IIB						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、さまざまな宗教的内容の楽曲を美しく表現力裕に歌えるように練習を重ねます。また歌うための身体と息の使い方に注目し、1年間の学習で「体が変わった」という実感が持てることも目指します。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの声を聞きつつ、楽しんで声楽アンサンブルの演奏ができること ・ドイツ語、ラテン語などの正しい発音での歌唱 ・良い声は身体とつながっていることの実感を持つこと ・歌詞の意味を的確に表現し演奏すること 						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その1 ・ポリフォニーの合唱曲 その1 ・発声の発展 筋肉の連携① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その2 ・ポリフォニーの合唱曲 その2 ・発声の発展 筋肉の連携② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その3 ・ポリフォニーの合唱曲 その3 ・発声の発展 筋肉の連携③ <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その4 ・ポリフォニーの合唱曲 その4 ・発声の発展 横隔膜① <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その5 ・ポリフォニーの合唱曲 その5 ・発声の発展 横隔膜② <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その1 ・降臨節の合唱曲 その1 ・発声の発展 横隔膜③ <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その2 ・降臨節の合唱曲 その2 ・発声の発展 顔面の響き① <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その3 ・降臨節の合唱曲 その3 ・発声の発展 顔面の響き② <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その4 ・待降節の合唱曲 その4 ・発声の発展 顔面の響き③ <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その5 ・降臨節の合唱曲 その5 ・発声の発展 体を響かせる① <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その1 ・発声の発展 体を響かせる② 						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その2 ・発声の発展 体を響かせる③ <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その3 ・発声の発展 声を離す① <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その4 ・発声の発展 声を離す② <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その5 ・発声の発展 声を離す③
授業外における学習 (準備学習の内容)	外国語の曲の場合は、正しい発音、言葉の意味を反芻すること 与えられた楽曲の反復練習
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。 ・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます ・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	その都度楽譜を配布する
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	現代日本語概論A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法について概説する。						
授業の概要	前期のAでは、音声・音韻、語彙、文字表記を中心として解説する。文法の問題は主として後期のBで解説するが、品詞の体系、人の呼称、指示語については、前期に扱うことにする。						
到達目標	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法について、その基礎的事項を理解する。						
授業計画	1) イントロダクション 音声・音韻 2) 音声と音韻 3) 母音と子音、音節とモーラ 4) アクセント・イントネーション 文字・表記 5) 文字の種類・書字方向 6) 常用漢字・現代仮名遣 語彙 7) 復習テスト 語彙のいろいろ 8) 語彙の計量 9) 語種 文体 10) 常体・敬体、役割語 文法 11) 品詞の体系 12) 復習テスト 指示語 13) 指示と照応 14) 人の呼称 15) 総復習テスト 前期まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後、各自でノートを整理し、授業内容を復習すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点20% 復習テスト80%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	副専攻科目						
科目名	現代日本語概論B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法について概説する。						
授業の概要	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法のうち、後期のBは主に文法の問題について解説する。						
到達目標	現代日本語の音声・音韻、語彙、文法について、その基礎的事項を理解する。						
授業計画	文法 1) 文の種類 2) 節の種類・従属節の従属度 3) 形容詞述語文 4) 動詞述語文・格 5) 復習テスト 動詞述語文・自他 6) 動詞述語文・受動態 7) 動詞述語文・使役態 8) 復習テスト テンス 9) テンス・アスペクト 10) アスペクト 11) モダリティ 12) 敬語の種類 13) 敬意表現・ポライトネス 14) 総復習テスト まとめ 15) 解説						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後、各自でノートを整理し、授業内容を復習すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点20% 復習テスト80%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国の生活と文化A						
担当教員	魏 然						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人の暮らしや文化を理解する						
授業の概要	中国の生活や文化などを紹介するDVDを鑑賞したのちに、中国人教師から補足説明を聞いたり、履修者からの質疑に応える。						
到達目標	日本と対照しながら、似て非なる文化について理解を深める。						
授業計画	第1回 越王勾踐剣 第2回 火薬 第3回 活字印刷技術 第4回 京劇 第5回 曲芸 第6回 元宵節 第7回 孔子 第8回 孝敬父母 第9回 甲骨文 第10回 刺繡 第11回 四合院 第12回 四書五経 第13回 指南針 第14回 春節 第15回 まとめ、感想発表						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で提供すること以外にも興味を持って、積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート(気づきの点・日本との違い・感想) 50% と最終発表、出席点 50%						
教科書	中国で出版されている『中国常識』DVD 中央放送電視大学音像出版社						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国の生活と文化B						
担当教員	魏 然						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人の暮らしや文化を理解する						
授業の概要	中国の生活や文化などを紹介するDVDを鑑賞したのちに、中国人教師から補足説明を聞いたり、履修者からの質疑に応える。また、受講生が興味を持った生活や文化について日本と対照して考え、発表する。						
到達目標	日本と対照しながら、似て非なる文化について理解を深める。						
授業計画	第1回 清明節 第2回 楚辞 第3回 寺廟 第4回 宋詞 第5回 中国茶 第6回 服装 第7回 灯彩 第8回 唐詩 第9回 唐三彩 第10回 塔 第11回 中国画 第12回 中秋節 第13回 剪紙 第14回 個人研究発表① 第15回 個人研究発表②、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で提供すること以外にも興味を持って、積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート(気づきの点・日本との違い・感想) 50% 個人研究発表、出席点 50%						
教科書	中国で出版されている『中国常識』DVD 中央放送電視大学音像出版社						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法A						
担当教員	河野 美抄子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 第3回：日本語教育概説2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 トイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法B						
担当教員	河野 美抄子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究 1 第3回：教科書研究 2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法C						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何が違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文法の仕組みを客観的に考える。 ・外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。 ・日本語を教えることはどういうことかを学ぶ 						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類・辞書形 第4回 ます形/て形/た形 第5回 条件 第6回 自動詞・他動詞 第7回 テンス 第8回 アスペクト 第9回 モダリティ 第10回 終助詞 第11回 副詞 第12回 接続詞 第13回 待遇表現・敬語 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもあります） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物・10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」（ひつじ書房）佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	日本語教授法D						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級・上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語教育、継承言語など、日本語をとりまく様々な問題点にもふれる。このクラスでは、留学生との交流授業を奨めており、場合によっては学外の施設へ見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文法の仕組みを客観的に考える。 ・外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。 ・日本語を教えることはどういうことかを学ぶ。 						
授業計画	第1回 初級の指導 第2回 中級の指導 第3回 上級の指導 第4回 日本語の誤用分析 第5回 日本語の音声1 (アクセントなど) 第6回 日本語の音声2 (調音点・調音法) 第7回 日本語の音声3 (発音表記) 第8回 日本語の音声4 (学習者の母語との関係) 第9回 対照言語学1 (言語類型論) 第10回 対照言語学2 (英・中・韓国語との比較) 第11回 対照言語学3 (英・中・韓国語との比較) 第12回 年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回 聴解演習1 第14回 聴解演習2 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習 (準備学習の内容)	日本語教授法A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」(ひつじ書房) 佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの国民性とフランス人氣質を学ぶ。						
授業の概要	在仏経験20年以上のアメリカ人ジャーナリストがフランス人について書いた文章を読む。						
到達目標	フランスの国民性とフランス人氣質の理解						
授業計画	第1回 親切と不親切 第2回 フランス人の連帯感 第3回 デパートや大型スーパーでの体験 第4回 不親切な店員たち 第5回 自分の非を認めないフランス人 第6回 フランスでミスを認めること 第7回 フランスの役所 第8回 フランス人と教養 第9回 フランスの必須科目 第10回 フランスの家族 第11回 世界一厳しい躰け 第12回 学校生活 第13回 グランド・ゼコール 第14回 フランス語に対するこだわり 第15回 人生の楽しみ。筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修前に参考書を読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	プリントを配付。						
参考書	『フランス人 この奇妙な人たち』ポリール・プラット、TBSブリタニカ、ISBN4-484-98110-6 C0098						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化B						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの歴史と政治						
授業の概要	フランスの社会を、歴史と政治の側面から知る。						
到達目標	フランスの歴史と政治の理解						
授業計画	第1回 フランスの概要 第2回 歴史：近代（1） 第3回 近代（2） 第4回 近代（3） 第5回 近代（4） 第6回 現代（1） 第7回 現代（2） 第8回 現代（3） 第9回 現代（4） 第10回 フランスの政治（1） 第11回 フランスの政治（2） 第12回 フランスの政治（3） 第13回 フランスの政治（4） 第14回 フランスの政治（5） 第15回 後期のまとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に応じて、参考書の関連ページを見ておくことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	プリントを配付						
参考書	「最新フランス・ハンドブック」、フランス外務・欧州問題省、原書房、2010年。						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス心理小説の研究						
授業の概要	平易なフランス語でリライトされたスタンダールの『赤と黒』を読みながら、フランスの歴史と社会について考える。						
到達目標	小説作品を通したフランス文化の理解。						
授業計画	第1回 スタンダールと『赤と黒』について 第2回 Leçon 1 Une Femme douce 「優しい女性」 第3回 Leçon 2 Julien aimé 「恋の成就」 第4回 Leçon 3 Un coeur plein d'orgueil 「自尊心の男」 第5回 Leçon 4 Julien le séducteur 「誘惑者ジュリアン」 第6回 Leçon 5 Le Roi à Verrières 「ヴェリエールに王がやって来た！」 第7回 Leçon 6 Soyez heureuse, Adieu. 「今生の別れ」 第8回 Leçon 7 La famille de M. La Mole 「ラモール公爵邸、舞台はパリへ」 第9回 Leçon 8 Au Bal 「舞踏会」 第10回 Leçon 9 Conversation avec Mlle de La Mole 「公爵令嬢マチルド」 第11回 Leçon 10 Une heure du matin 「真夜中の逢引き」 第12回 Leçon 11 Un Orage 「嵐」 第13回 Leçon 12 Condamné à mort 「判決は死刑」 第14回 Leçon 13 Une Grande fin 「大団円」 第15回 前期のまとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	学期中に文庫などで『赤と黒』全編を読むことが望ましい。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（50%）＋筆記試験（50%）						
教科書	開講時に指示する。						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習B						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス語作文						
授業の概要	構文の理解を中心として、いろんなフランス語の文を作る練習をする。 並行して、フランス語のヒアリングの練習もする。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。						
到達目標	フランス語の構文の理解を深め、フランス語で書く力を養う。						
授業計画	<p>第1回：授業のガイダンス。教科書0課「文と節」の説明。</p> <p>第2回：第1課「属詞」の説明と練習問題。第1課の作文問題。</p> <p>第3回：第2課「目的補語」についての説明と練習。第2課の作文問題。</p> <p>第4回：第3課「状況補語」の説明。第3課の作文問題。</p> <p>第5回：第4課「非人称主語と実質主語」の説明。第5課「半助動詞」の説明。第4課、第5課の作文問題。</p> <p>第6回：第6課「補足節」の説明。第6課の作文問題。</p> <p>第7回：第7課「間接疑問節」の説明。第7課の作文問題。</p> <p>第8回：中間試験。</p> <p>第9回：第8課「関係代名詞節」の説明。第8課の作文問題。</p> <p>第10回：第9課「副詞節（その1）」の説明。第9課の作文問題。</p> <p>第11回：第10課「副詞節（その2）」の説明。第10課の作文問題。</p> <p>第12回：第11課「副詞節（その3）」の説明。第11課の作文問題。</p> <p>第13回：第12課「副詞節（その4）」の説明。第12課の作文問題。</p> <p>第14回：第13課「分詞節」、第14課「不定法従属節」の説明。第13課と第14課の作文問題。</p> <p>第15回：期末試験 毎回最後の20分間を使ってヒアリングの練習をする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む問題集の箇所をすべてあらかじめ解いておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤答であったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習の量30%。仏検合格者は最終成績に5点加点する。						
教科書	「書くフランス語—考え方と練習—」瀧川好庸、飯田雅章、大柳貴、寺家村博著、白水社						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチャー・フランセーズIA						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	<p>語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。</p>						
到達目標	書きことばに慣れること。フランス語の語彙力を増すこと。長文読解力を高めること。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。 第2回：1課「ガリアの雄鶏」 第3回：1課の続きとEXERCICE 第4回：2課「右と左」 第5回：2課の続きとEXERCICE 第6回：3課「フランスとドイツ」 第7回：3課の続きとEXERCICE 第8回：中間試験。 第9回：4課「マルセーユ」 第10回：4課の続きとEXERCICE 第11回：5課「フランス人とイギリス人」 第12回：5課の続きとEXERCICE 第13回：6課「フレンチ・ドクターズ」 第14回：6課の続きとEXERCICE 第15回：期末試験 授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。 授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には5点程度加点する。						
教科書	「時事フランス語 2013年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIB						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	<p>語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。</p>						
到達目標	書きことばに慣れること。フランス語の語彙力を増すこと。長文読解力を高めること。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。 第2回：7課「ハラル」 第3回：7課の続きとEXERCICE 第4回：8課「ツール・ド・フランス」 第5回：8課の続きとEXERCICE 第6回：9課「ロマ」 第7回：9課の続きとEXERCICE 第8回：中間試験。 第9回：10課「アジア系フランス人」 第10回：10課の続きとEXERCICE 第11回：11課「トヨタ・フランス」 第12回：11課の続きとEXERCICE 第13回：12課「ロワール川」 第14回：12課の続きとEXERCICE 第15回：期末試験 授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。 授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には最終成績に5点加点する。						
教科書	「時事フランス語 2013年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第1課 Mon quartier (1) 第2回 Mon quartier (2) 第3回 Mon quartier (3) 第4回 第2課 Ma ligne (1) 第5回 Ma ligne (2) 第6回 Ma ligne (3) 第7回 第3課 Les cafe de mon quartier (1) 第8回 Les cafe de mon quartier (2) 第9回 Les cafe de mon quartier (3) 第10回 第4課 J'aime le tachiyomi. (1) 第11回 J'aime le tachiyomi. (2) 第12回 J'aime le tachiyomi. (3) 第13回 第5課 La mode japonaise (1) 第14回 La mode japonaise (2) 第15回 前期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第5課 La mode japonaise (3) 第2回 第6課 La television japonaise (1) 第3回 La television japonaise (2) 第4回 La television japonaise (3) 第5回 第7課 La cuisine japonaise (1) 第6回 La cuisine japonaise (2) 第7回 La cuisine japonaise (3) 第8回 第8課 J'aime le Shibuya. (1) 第9回 J'aime le Shibuya. (2) 第10回 J'aime le Shibuya. (3) 第11回 第9課 Les montagnes japonaises (1) 第12回 Les montagnes japonaises (2) 第13回 Les montagnes japonaises. (3) 第14回 第10課 La ceramique japonaise (1) 第15回 後期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--